

第27回全日本フルコンタクト・テコンドー選手権大会

組手A級の見所

組手A級男子無差別級（選抜11名）

2016年度、フルコンタクト・テコンドー王者決定戦である。

A級男子無差別級は、競技レベルが向上して選手層が厚くなり、

比較的レベルが高かった第13回全日本FT大会～第17回全日本FT大会と同等の水準になった。

前年度優勝者の鈴木雅博（湘南平塚テコンドークラブ）、八幡直明（東京中野テコンドークラブ）、

倉田剛志（千葉柏テコンドークラブ）、吉場亮介（横浜戸塚テコンドークラブ）の4強の争いとなるだろう。

彼ら4名は、攻撃力（蹴美を意味しない）や防御力に優れ、そして打たれ強い。

問題は、本大会において蹴美（華麗で美しく力強い蹴り）が発揮できるかにある。

蹴美力は、匠の技が現場の厳しい修行によって涵養されるのと同様、

フルコンタクト・テコンドー創始者の河明生宗師範が指導される総見で涵養される。

4名はいずれも宗師範総見において蹴美力を涵養した。

鈴木と八幡は、神奈川大学湘南校体育会テコンドー一部出身、吉場は神奈川大学横浜校体育会テコンドー一部出身で、3名共、在学時に主将であったため河宗師範の薫陶を最も受けている。

卒業後、プロキックボクサー、東京都や横浜市の消防署等で働きながら日本テコンドー協会の加盟クラブで精進し、本大会を迎えるのだが、蹴美力という一点に関して言うと、やや死角ありといえる。

たとえば、八幡は根の張った大木のようにいかなる蹴りに対しても動じず安定した防御力を誇っているが、予選会や総見時の組手において学生時代にあった蹴美力を発揮していない。

他方、蹴美力が向上しているのが倉田である。

元々、100kgある体重も88kgまでしぼり攻撃力が抜きん出ている。

蹴美を常に意識しており、かつ意識したとおりに体が動いている。

全日本大会ポスターに掲載する写真に毎年、倉田の蹴り写真が選ばれているのは必然的な結果なのである。

よって本命・倉田、対抗筆頭・八幡、次いで鈴木と予想される。

初出場の新人で注目されるのが、中澤 友（大阪弁天町テコンドークラブ）である。

B級を飛び越えてのA級選抜である。久々に神奈川以西から蹴美の選手が育ったことは、大変、喜ばしい。

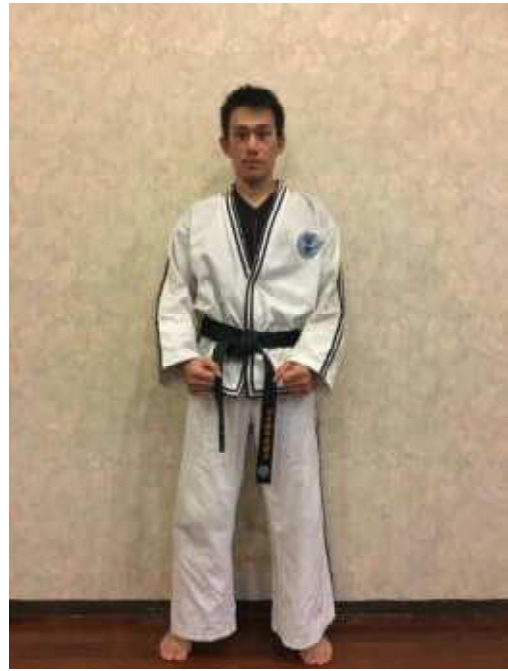
横浜市大会では油断した鈴木を破り大金星を上げている。鈴木と再戦する可能性が高く熱戦が期待される。

倉田剛志



自分らしいテコンドーで
試合を楽しみたいと思います。

八幡直明



一生懸命頑張ります。

吉場亮介



今大会は、挑戦者として一戦一戦に全力を尽くします！
応援、よろしくお願いします！！

組手 A 級女子無差別級（選抜 5 名）

2016年度、フルコンタクト・テコンドー女王決定戦である。

本大会より初めて女子組手もA級とB級とにレベル分けされた。

記念すべき初のA級女子無差別級を制するのは、前根奏子（横浜市立大学体育会テコンドー部）、

市坪愛（東京江東テコンドークラブ）、澤田侑輝乃（神奈川大学体育会テコンドー部）の争いとなる。

前根は、前年度全日本大会において市坪の4連覇を阻止したが、それは練習量の賜であった。

しかし、今年の前選会を見る限り、大学4年の就職活動が響き、昨年度ほどの勢いが無い。

同様に、市坪も社会人2年目で、大学生時代に3連覇した勢いが無い。

両名が与えられた環境をいかにして本番までの短期間に克服するかが鍵となる。

他方、最も練習量が充実しているのが初出場の新人・澤田である。

宗師範総見にも積極的に参加して漸次力をつけ、後半の前選会では市坪や

ベテランの高伶香（武蔵小杉テコンドークラブ）を破っており、その勢いはあなどれない。

ただ、前根とは前選会で2度対決したがいずれも敗れている。苦手意識の克服が課題と言える。

前根奏子



会場が盛り上がるような試合ができるよう、練習・体調管理を怠らず本番を迎えたいです。

市坪愛



この度、5回目の全日本大会出場となりました。昨年4連覇という目標が破れ、今年は一から出直すことになりました。この一年は前選会でもぱっとしない成績ではありますが、全日本大会に向けて練習を積み重ねて参りました「観ていて楽しい試合」をモットーに技を繰り広げたいと思います。皆様、応援の程よろしく願いいたします。

高 伶香



女子はA級、B級と分かれて初の大会となる今大会、A級は人数も少なく例年以上に緊張しております。予選会ではなかなか力を発揮しきれませんでした。リング上では長年続けて来た成果が出せるよう、心して挑みます。応援に来てくださる方々に楽しんでいただける試合をしたいと思います。応援よろしくお願いいたします！

高田憲利



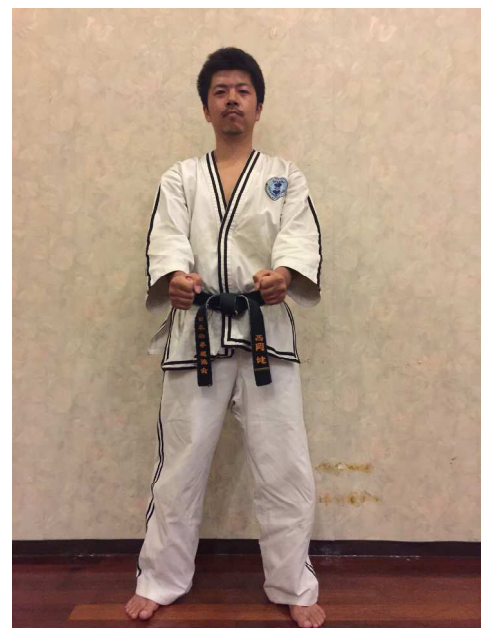
今大会も選ばれて光栄に思います。しっかりと準備をしてベストを尽くします。

霜倉 亮



今年は予選会で初めて一部組手で優勝することができ、さらには二大会での優勝も果たしました。実力で全日本大会に出場できたことを嬉しく思います。近畿地方の数少ない選手として大会を盛り上げます。

西岡 健



四十路まであと僅か。とにかく試合を楽しみます。また子持ちのアラフォーでも若い選手と同じ土俵で戦えるところを見せたいです。